福田地区防災士会第8回研修会　　2022年9月11日

前日の天気予報とは打って変わって、曇り時々雨、所によって晴れ。こんな天気の中での研修会となりましたが、１１名の参加で行いました。今回は、２０１４年８月２０日に発生した豪雨災害で被災した八木地区を中心に、地元の復興交流館モンドラゴンの松井憲氏の案内で八木四丁目から緑井八丁目までの被災地を見学しました。

福田公民館に集合し、資料とお茶を受け取り、行程の概要の説明のあと３台の車に分乗して午前９時半に出発。１０時前に八木踏切近くの駐車場で案内者の松井氏と合流。

松井氏から現地の概要説明を受け、被災当時のお話なども伺いました。土砂のにおいではなく「生木の折れたにおい（バイタリスのにおい）」の話や、朝の９時半に自衛隊の車両が並んでいるのを見て「助かった」と思った話など、臨場感あふれるお話を伺ってのスタートでした。

最初の見学地は八木四丁目の寺院の上。山の上に今でも残る崩壊地の跡を見上げ、そこから一気に土石流が下った様子がわかる現場でした。今では巨大な堰堤が 2 基建設されていますが、ここでは当時設置されていた治山堰堤が壊されてのコンクリート片が流下したことや、合計１０名の方が亡くなったことなどの説明がありました。

２番目の見学地は長さ２００ｍもの巨大堰堤の上。上側に透過型の堰堤があり、下側に造られた巨大堰堤は日本でも屈指の大きさとのこと。被災当時そのままの住宅跡の残る現場が見える住宅地の上で土石流が道路に沿って高速で流下した様子についてのお話を伺いました。

３番目は新たに建設中の「災害伝承館（来年９月１日開館予定）」の上での説明。「モンドラゴン」の由来が、モンは山、ドラゴンは竜とか大蛇を意味し、土石流をなぞらえたもの。昔から語り継がれた大蛇退治の話にちなみ、この地が土石流災害をよく起こす山ということをいつまでも伝えていきたいという意味が込められているとの話を伺い、あらためて「伝承」の意義も確認できました。

４番目は八木三丁目の県営住宅の上で巨大な堰堤（容量約１万２千㎥）とその下の巨大な沈砂池（容量約２万㎥余）の所で説明を受けました。松井氏の住宅はこの直下で、当時は八

木用水の増水と重なり、床下まで泥水に浸かったとのことでした。参加した田崎さんから、被災当時、妹さんが撮影された写真をもとに当時のたいへんな様子の説明がありました。

最後は緑井八丁目の巨大堰堤群の下で説明を受けました。昨年８月の大雨災害では大量の土砂が流れてきて堰堤をほとんど埋めてしまったとのことですが、堆積した土砂の排出が埋まった流木のため、なかなかできなかったことなどが説明されました。

ここで時間となり、全員で記念写真を撮り、一路福田へ向けて帰路につきました。現地では、巨大な砂防堰堤が何基も完成し、レッドゾーンだったところがイエローゾーンに変更されたことで、住宅建設が急速に進んでいるということも紹介されました。地価が下がって住宅が安くなっているということのようですが、堰堤では土砂は止められても水は止められないので、複雑な気持ちでした。（記責　越智）

阿武山(標高 586m)のふもとで松井氏(右端)より説明を受ける。

八木四丁目の寺院の上での説明　堰堤が破壊されて巨大なコンクリートも流下した。

八木四丁目の土石流跡と砂防堰堤
はるか上から土石流が流下したことがわかる
写真提供:安部紀恵さん

八木四丁目の長さ200mの巨大堰堤

八木四丁目の200mの堰堤の上にある透過型堰堤(ここで流木や巨石を止める)

八木四丁目の土石流が流下した道路と被災した住宅(土石流は道路の両側の住宅を破壊)

建設中の広島市豪雨災害伝承館の上の道路で説明を聞く（八木四丁目）。

八木三丁目の県営住宅の上での説明。
この付近では41名の方が犠牲になられた。

災害時、家族が住んでおられた田崎さん（右端）から当時の様子を聞く。中央上は県営住宅。

被災直後の八木三丁目。 県営住宅には巨大な岩が押し寄せた。 写真提供：田崎仁司さん

参加者一同で記念撮影（昨年の大雨で土砂が満杯になった緑井八丁目の堰堤群の下にて）